

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.36 2008年8月号

最近、日本はもうダメだ、という話を聞くことがあります。これはもちろん、主に経済的なことを指して言っているのですが、それに結び付けて、政治や外交もすべてダメという、かなり悲観的な意見も聞かれます。政治や外交はともかく、日本は本当にダメなのでしょうか。

今年は中国でオリンピックが開催されますが、最近の中国の経済発展にはめざましいものがあります。一方で、少子高齢化がすすむ日本では今後人口が減っていき、国力はますます落ちていくと考えられています。このように、隣の国が目覚ましい発展を遂げている中、自分たちの国は衰えていくという、あせりのような気持ちが先の発言になるのでしょうか。

でも、経済学者の中谷巖氏が、日本人には他国の方が真似できない能力があり、それが日本企業の底力になっているという話をされていたのを、ある雑誌で読みました。たとえば、自動車の技術はもともと外国から学んだものですが、それに改善や改良を加えることでさらに高い価値に転換していく能力です。この点をよく「猿真似」などと揶揄されることもありますが、作家の司馬遼太郎氏はその著作の中で、猿真似というなら、何千年も前から他国の技術を模倣して発展してきたヨーロッパ諸国のほうが古株だと言っています。また、中谷氏は中国人の国民性について、長い歴史の中で異民族による政権が入れ替わってきた中国では、寝首をかかれぬよう常にしたたかさをもって生きてきたために、よくいえば戦略的、悪く言えばずるがしこい気質であることを指摘し、それが必ずしも世界から評価されないことも話されています。それに比べて長く安定していた日本では、相手を裏切ったり、足をすくったりすることを嫌う「信用」を大事にする国民性を持っていて、それが世界から評価されているといいます。イギリスで行われた「世界に良い影響を与えている国」という世論調査でも、数ある大国をおさえて日本が第1位だったそうです。だから、今後も中国が日本に取って代わることなどないし、これからも日本は競争力を持ち続けられるといいます。

そういえば以前、この「毎日楽しく」で、日本人は高貴だ、と話したフランス人駐日大使のことを書きましたが、私たちはもっと自信を持っていいのかもしれないね。

